

『ひろがる言葉 小学国語 三上』年間指導計画・評価計画

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1)・言語活動例 (2)〉	時	学習活動	評価規準
4	—	三年生で学ぶこと				
4	4 (話す聞く 2)	ことばに親しもう	□◇声に出して読んだり、わかりやすく話したりすることや、内容を聞き取ったりすることを楽しむ、国語学習への意欲をもつ。			
4	2 (話す聞く 2)	「じこしょうかいビンゴゲーム」をしよう	◇「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、自身のことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇目的を記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ	1	○「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、互いを知り合うという学習の見通しをもつ。 1. カードを書く。 (1) 好きなものや得意なことをカードのマス目に書く。 2. カードを使って、ビンゴゲームをする。 (1) グループになり、カードに書いたことを1マスずつ発表し合い、同じ場合は丸を付ける。列がそろったら「ビンゴ」と言う。 (2) 同じものが好き、同じものが得意という人どうしで集まり交流する。 (3) グループを変えて、ビンゴゲームをする。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (【知識及び技能】(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 (【思考力、判断力、表現力等】Aア)
	2	かえるのびよん	□姿や様子をイメージしながら、工夫して音読する。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	3	1. 各連で、それぞれをどのように跳び越えたのかを考えながら、「びよん」の読み方を工夫して音読する。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(【知識及び技能】(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cイ)
				4	2. グループなどに分かれて、動作化やセリフなどを工夫して音読する。	【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って工夫して音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
4～5	9 (書く2)	一 ばめんのつながりに気をつけて読もう	□登場人物の行動や気持ちを思い浮かべながら読み、物語の続きを予想する。			
		白い花びら	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒◎知技(3)オ ■気に入った表現について、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。⇒◎思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	1 2 3～5 6 7～9	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 全文を読み、初発の感想を書く。 (1) 登場人物の人数や場面の数を確認し、できごとの全体をとらえる。 (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを書いて紹介し合う。 考えよう 2. 場面ごとに、ゆうた・かずき・女の子の行動や気持ちを読む。 (1) ゆうたとかずきは、どのような子どもか。行動や話したことを比べながら読む。 (2) 女の子について、不思議だと思うところを見つけて紹介し合う。 (3) (2)でまとめたことをもとに、女の子に対するゆうたの気持ちの変化をとらえる。 深めよう 3. ゆうたは女の子にまた会えると思うか、自分の考えをもとに話し合う。 ・2の(3)でまとめた内容をもとに考える。 広げよう 4. 気に入った言葉や表現を紹介し合う。 ・なぜその表現が気に入ったのか、理由を説明する。 ○学習を振り返る ・ゆうたの気持ちの移り変わりを想像することができたか。 ・気に入った言葉や表現を見つけて紹介できたか。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ) 【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを友達と紹介し合おうとしている。
5	3 (書く3)	「発見ノート」を作ろう	■毎日の生活の中での発見や不思議に思ったことなどを「発見ノート」に書く。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書きたいことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。⇒◎思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆理科：観察ノートへの応用を図ることができる。	1・2 3	○p.32を読んで「発見ノート」に書く内容を理解し、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう(重点) 1. p.33の「発見ノート」を読み、具体的な書き方を理解し、身のまわりを取材して発見したことを「発見ノート」に書く。 組み立てよう 2. 集めたものを並べ直す。 書こう・読み返そう 3. 書いた内容を確認し、一枚を完成させたら、同じ要領で複数のノートを作る。 伝え合おう 4. 友達とノートを交換し、お互いのノートを読み合って気づいたことなどを話し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって「発見ノート」を作ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5	2	国語辞典の引き方	△国語辞典の引き方を理解し、辞典を活用する。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ	1	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. 教材文を読み、国語辞典の引き方を知る。 2. 見出し語には出ていない言葉をどう調べればいいのか見当をつける。 3. 二つの意味を合わせて言葉を理解することを確認する。 4. 辞典によって、ならび方のきまりなどが違うことを知り、自分が使う辞典のきまりに従って引く。 5. ならび方のきまりに気をつけてP.37の下段の語句などを国語辞典で調べて、発表し合う。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） 【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を活用しようとしている。
				2	○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5	6 (話す聞く 6)	二 すじみちを立てて発表しよう	◇中心点をはっきりさせたり、理由を添えたりして自分の宝物を紹介し、友達の見や感想をもとによりよい発表にする。			
		たからものをしょうかいしよう	△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇目的を意識して、日常生活において伝えたいことなどから話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、話題に合うことがらを選ぶこと。 ⇒思判表 A (1)ア ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒◎思判表 A (1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表 A (1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表 A (1)エ ◇説明や報告など、調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表 A (2)ア	1 ○単元名やリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1) 全文を読んで、森本さんの発表が変わったことに気づき、学習の見通しをもって「学習の進め方」をもとに学習計画を立てる。 決めよう・集めよう 1. 紹介する宝物を選ぶ。 (1) 自分が紹介したい宝物について考えを広げる。(イメージマップなど) 2・3 組み立てよう（重点） 2. 伝えたいことが伝わるように、組み立てを考える。 (1) 自分の紹介する宝物を決め、発表メモを作る。 (2) p.39の森本さんが最初に考えたスピーチを読んで、伝えたいことは何だったのか話し合い、発表メモと比べる。 (3) グループで発表する前に、p.40・41の森本さんが作り直したメモとスピーチを読み、友達にもらった意見や感想と照応しながら、改善された点について話し合う。 (4) 話の中心や理由が伝わるように声の抑揚や強弱などに注意し、自分の宝物について紹介したり意見や感想を述べ合ったりして発表メモを修正する。 4・5 話そう・聞こう（重点） 3. クラスで発表する。 (1) クラスで発表し合う。可能であれば他のクラスの友達・保護者・兄弟学級の人など、相手を選んで発表する。 6 伝え合おう 4. 感想を伝え合う。 (1) 宝物を紹介した感想を聞き合う。 ○大事なことをまとめ、学習を振り返る。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（【知識及び技能】(2)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（【思考力、判断力、表現力等】Aイ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。（【思考力、判断力、表現力等】Aウ） 【態度】粘り強く話の構成を考え、今までの学習を生かして自分の宝物を紹介しようとしている。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	時	学習活動	評価規準
5	2 (話す聞く 2)	聞いてさがそう	◇大事なことは何かを考えて、メモを取りながら道順の説明を聞く。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 →知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 →知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活において伝えたいことなどから話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、話題に合うことを選ぶこと。 →思判表A(1)ア ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 →思判表A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえるとともに、話の内容を基に自分の考えを持つこと。 →◎思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 →思判表A(2)イ	1 <		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5～6	12 (書く2)	三 だんらくの要点をつかもう				
5	2	うめぼしのはたらき	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	1 2	1. 脚注を読み、問いの文と答えの文を見つける。 2. 脚注を読み、「中心となる文」と「それを説明する文」を見つける。 (1) 3段落にサイドラインを引く。 (2) 4段落,5段落にサイドラインを引く。 (3) 小集団で交流し、サイドラインの位置を確かめる。 3. 学習を振り返る。 1. 前時にサイドラインを引いた部分を短くまとめる。 (1) サイドラインを引いた部分を音読する。 (2) 短くまとめた文を考え、ノートに書く。 (3) 友達どうしで交流する。 2. p.61「学習の手引き」を読み、要点をまとめることについて理解する。 (1) 「要点」という言葉の意味を知り、その意味をノートにまとめる。 (2) 友達どうしで交流する。 3. 学習を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） 【態度】粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて、学習課題に沿って要点をまとめる。
5～6	10 (書く2)	めだか	□段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア □幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	3 4・5 6～8 9・10 11・12	○単元名とリード文を読み、直前の教材で学習したことを生かしながら、要点に気をつけて読み、大事なことをまとめるという学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. わかったことや、浮かんだ疑問を初発の感想として書く。 (1) 文章を通して読み、めだかのどのようなことを説明している文章なのかを話し合う。 (2) (1)をもとに、文章を大きく二つのまとまりに分ける。 考えよう 2. p.58～59の手引きに書かれた表をもとに、段落の要点を書く。 (1) めだかは、敵からどのようにして身を守っているのか。 (2) 友達どうしで交流し、各段落の要点を確認する。 (3) 学習を振り返る。 3. 段落の要点をまとめる。 (1) 自然の厳しさにたえるためのめだかの体の特長を、「めだかはかせ」になったつもりで他の魚と比べながら箇条書きにする。 (2) 友達どうしで交流し、各段落の要点を確認する。 (3) 学習を振り返る。 深めよう 4. 「めだか」についてわかったことについてまとめる。 (1) 表に整理したことをもとに、P59の項目を参考にわかったことを書く。 (2) 本を読んでわかったことがあったら、つけたしをする。 広げよう 5. 書いた文章を友達と読み合う。 (1) 友達と交換し、書いた文章を読む。 (2) 感想を一言書いたり、話したりして伝える。 ○学習全体を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） 【態度】粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約し、学習課題に沿って分かったことや大事なことをまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6	4 (書く1)	俳句に親しむ	△俳句を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ ☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にすること。 ☆図書館活用：俳句への関心を広げる。	1 2・3 4	○p. 62を読んで、学習のめあてをつかむ。 1. 俳句の特徴を知る。 2. それぞれの句を、解説を読みながら、季節の様子を想像して音読する。 3. 気に入った俳句を覚えて暗唱し、発表する。 4. 想像した句の情景や、その句を気に入った理由などをカードに書いて、発表し合う。	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】進んで易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって言葉の響きやリズムに親しもうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6～7	13 (書く10)	四 しりょうを集めて活用しよう				
6	3	本で調べよう	△本の仕組みやつくりを知り、それをもとに知りたいことに応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。 △知りたい情報を見つけるための方法を知り、それをもとに目的に応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒思判表C(1)オ □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆理科：図鑑の活用	1 2 3	○知りたいことを見つけるための方法を使って、目的に応じた本を探して読み、「読書カード」に記録するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 1. 図鑑の構成と使い方を知る。 (1) 調べ学習の経験を想起し、自分の知りたいことが載っている本を探す方法について発表する。 (2) 目次・索引の役割や違いを知る。 (3) 目次・索引を使って図鑑を引く。 2. 調べたいことを決め、本を探す。 (1) 前書き・後書きが本を探すときの手がかりになることを知る。 (2) 奥付について知り、調べた本についての記録の仕方を知る。 (3) 調べたいことを決め、目次・索引、前書きなどの手がかりをもとに本を探して読む。 3. 本を読んでわかったことや、本に関する情報などを「読書カード」に記録し、友達と読み合う。 (1) 本に関する情報、調べたいこと、読んでわかったことや感想などを「読書カード」に記録する。 (2) 「読書カード」を友達と読み合い、興味をもった本を探して読む。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約し、学習課題に沿って分かったことを説明しようとしている。 【態度】積極的に、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約し、学習課題に沿って分かったことを説明しようとしている。
6～7	10 (書く10)	クラスの「生き物ブック」を作ろう	■図や資料を使って、生き物の特徴を比べて書く。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)エ ■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかななどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆理科：観察記録文の書き方に活用することができる。	1 2・3 4・5 6・7 8・9 10	○「学習の進め方」を読んで、見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. 生き物を選び、調べる。 (1) 調べたい生き物の特徴を探す。 (2) 選んだ生き物と、比べてみたい生き物について調べ、メモに書く。 組み立てよう（重点） 2. 組み立て表を作る。 (1) 書いたメモを並べる。 (2) 組み立て表を読み合い、見直す。 書こう 3. 文章を書く。 読み返そう 4. 文章を読み返す。 伝え合おう 5. 友達と読み合う。 ○今回の学習で学んだことを学習感想としてまとめる。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) 【態度】粘り強く文章の構成を考え、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
7	2	漢字の広場 ② 漢字の音と訓	△漢字の音と訓について理解する。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. p.78の上段の設問を読み、「先」という字の読み方の違いを考える。 2. 漢字には、音と訓の読み方があることを知り、その違いを比べる。 3. p.79の上段の設問を読み、音と訓のどちらが使われているかを話し合う。 4. p.146の「漢字を学ぼう」の表を使って、これまでに学んだ漢字の音と訓を確かめる。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字の「音」と「訓」について知り、正しく使おうとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ② 二年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	3・4	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 9. 「ぼくは、海で姉や妹と遊びました。夜は、ほたるを見ました。」を参考にして絵の中の言葉を使って、絵に描かれている様子を説明する二文以上が続く文を書く。 10. 絵の中の言葉を三つ以上使って、二文以上が続く文章を書く。 11. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
7	9 (書く2)	五 登場人物のせいかくを 考えながら読もう				
		のらねこ	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。⇒◎思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、相手のことを思いやったり、互いに理解し信頼し合ったりすることについて考える。	1・2 3～6 7 8・9	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 物語を読んで登場人物を確かめる。 (1) のらねことリョウの行動やセリフをもとに、気づいたことや考えたことをノートなどにまとめる。 (2) まとめたことをもとに、のらねこの性格について話し合う。また、のらねこそリョウがどのように思っているかを想像して話し合う。 考えよう 2. のらねことリョウの気持ちの移り変わりをとらえる。 (1) 二人の気持ちがいちばん近づいたのは、どの場面かを考えて話し合う。 (2) のらねこと、リョウの家のねこの違いを考えて紹介し合う。以下のような課題をもとに考えよう。 ①なぜ、のらねこはあんなにうたぐり深いのだろう。 ②りょうになでられたのらねこは、何を考えていたのだろう。 深めよう 3. リョウとかいねこの様子を、のらねこは屋根の上からどのような気持ちで見ていると思うか、想像したことをもとに話し合う。 ①リョウに対してどのような気持ちになっているか。 ②かいねこに対してどのような気持ちをもっているか。 広げよう 4. 『のらねこ』を読んだ感想をノートに書き、読み合う。 ・最初に読んだときの感想や疑問と、今の時点での感想の違いを書く。 ○学習を振り返る。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(【思考力、判断力、表現力等】Cカ) 【態度】進んで登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって物語の感想を書こうとしている。
7	1 (書く1)	きせつの言葉を集めよう	△俳句には「季節」が読み込まれていることを知り、季節に関係する言葉を集める。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒知技(3)ア △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。⇒◎知技(3)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	1	1. 教科書に例示した俳句の中にある「季節」を指摘し、声に出して読む。 2. 「歳時記」などから、季節に関する言葉を集めてノートに書く。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(【知識及び技能】(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア) 【態度】積極的に、長い間使われてきた季節を表す言葉の意味を知り、学習課題に沿って季節の言葉を集めようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	1 (話す聞く 1)	よく見て、話し合おう	◇写真をよく見て、気づいたことや考えたことについてグループで話し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	1	○写真を見て気づいたことや考えたことを話し合うという学習の見通しをもつ。 1. グループで話し合う写真を選ぶ。 2. 写真をよく見て、気づいたことをメモに書く。 (1) 写真を見る視点をもつ。 (2) 自分の経験を思い出したり、読んだことのある物語と結びつけたりして、イメージを広げて感じ取ったことを書く。 3. メモをもとに、話し合う。 (1) イメージしたことを順番に出し合う。 (2) 写真の題名やキャッチフレーズを考える。 (3) 話し合った内容を発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ） 【態度】進んで目的や進め方を確認し、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	16 (話す聞く 2, 書く14)	六 つたえたいことをはっ きりさせて書こう	■◇取材を通してわかったことを、伝えたいことを明確にして報告文にまとめ、感謝やお誘いの手紙を添えて送る。			
9	10 (話す聞く 2, 書く8)	取材して知らせよう インタビューをしよう	■◇取材メモを上手に使う、組み立てを考えながら調べたことを文章にまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒◎知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒◎思判表A(1)エ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■書くこととすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)エ ■感想や意見を伝え合い、書くこととしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆社会科：校外学習での報告文の作成に役立つ。	1 2 3・4 5・6 7～9 10	○「学習の進め方」を読んで、見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 知りたいたいことをまとめて、「取材メモ」を作り、調べる。 (1) 「取材メモ」の作り方とメモの例を読み、取材のときに注意することなどを出し合う。 (2) p.106～107の阿部さんの例文を欄外の注とともに読み、気づいたことなどを出し合う。 (3) インタビューの仕方を理解し、計画を立てる。 (4) 計画をもとに、見学に行き、インタビューする。 (5) 見学して、わかったことをメモする。 組み立てよう(重点) 2. 「取材メモ」の中から、書く内容を選ぶ。 ※「取材メモ」の中から、いちばん伝えたいことを中心に選び出す。 ○「取材メモ」をもとにし、文章の構成を考える。 書こう(重点) 3. 報告文を書く。 読み返そう 4. 報告文を読み返す。 ○書き上げた報告文を読み返して、必要なところは書き直して清書する。 伝え合おう 5. 友達と読み合う。 ○取材や「取材メモ」の書き方を振り返り、他教科の学習(例えば社会科や総合的な学習の時間など)にも生かしていく。	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(【知識及び技能】(1)キ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Aエ) ◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって報告文を書くようとしている。
9	6 (書く6)	手紙を書いてつたえよう	■手紙の書き方を知り、目的に合わせた手紙を書く。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒◎知技(1)キ ■書くこととすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ ■案内状や礼状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。⇒思判表B(2)イ ☆社会科・総合的な学習の時間：依頼状やお礼状を書く際に活用できる。	11・12 13 14～16	○教材の学習の進め方を理解して見通しをもち、手紙を書くことに興味をもつ。 決めよう・集めよう 1. p.110・111の阿部さんの手紙を読んで、お礼の手紙の書き方や書くときの工夫について考える。 2. 誰にどのようにお礼を伝えるのかを考えながら、手紙に書く事柄を決める。 組み立てよう 3. お礼の手紙の構成を考える。 書こう・読み返そう(重点) 4. 手紙・封筒の書き方を知り、相手や目的に応じた手紙を書く。まちがいがなければ読み直す。 伝え合おう 5. 下書き(清書)を読み合い、書き手の気持ちが伝わる文章になっているかを確かめる。 ○学習を振り返り、手紙のよさについて話し合う。	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(【知識及び技能】(1)キ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) 【態度】粘り強く相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもって目的に合わせた手紙を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	2	漢字の広場 ③ 送りがな	△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「強まる」「強める」を含む文を読み比べ、送り仮名の役割について考える。 2. p.112の下段の例示の言葉をいくつか使って短文を作り、友達と読み合い、適切に送り仮名を書いているかを確かめ合う。 3. 教科書に示されているほかに、「動きを表す言葉」や「様子を表す言葉」を探し出し、発表し合う。 4. p.113の上段の「書く」「読む」の()に送り仮名を書き、気づいたことを話し合う。 5. 「だす・でる」「きる・つく」「けす・きえる」を、送り仮名に注意して漢字で書く。 6. 「育」のように、同じ漢字でも送り仮名によって、読み方や意味の違いを使い分けられていることを知り、正しく読む。 7. 送り仮名によって、読み方が変わる漢字を集め、それらを使った短文を書き、発表する。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)
	2 (書く2)	漢字の広場 ③ 二年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	3・4	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 9. 「元気に走り回ってみようと思います。」を参考にして、外でやりたいことを文に書く。 10. 外でやりたいことについて、絵の中の言葉を三つ以上使い、二文以上が続く文章を書く。 11. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)
						【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)
						【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9～10	9 (書く2)	七 場面のうつりかわりに 気をつけて読もう	□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの 変化などについて、叙述を基に捉える。			
		わすれられないおくりもの	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	1～3 4・5 6・7 8・9	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. (1) 題名からどのようなことを考えたか、自由に想像し自分の考えを発表するとともに、全文を読んで初発の感想を書く。 (2) 森の動物たちの、あなぐまの思い出を表に整理して発表する。 考えよう 2. あなぐまと森のみんなの心の動きを考える。 (1) あなぐまは、どのような気持ちで森の動物たちにいろいろなことを教えていたのかを想像する。 (2) あなぐまが死んでしまった場面と、物語の終わりの場面で、もぐらの気持ちがどのように変化したか、比べて考えを話し合う。 ※4・5時のどこかで適宜「言葉」の学習を行う。 深めよう 3. (1) 他の動物たちは、あなぐまにどのようなお礼の言葉を言ったと思うか。森の動物たちにとって、「わすれられないおくりもの」とはどのようなものかといえるか、話し合う。 広げよう 4. (1) 「もぐらは、「ありがとう、あなぐまさん」のせりふの後に、どのような言葉を続けたと思うか想像する。 (2) 他の動物たちの、あなぐまに対するお礼の言葉を想像してノートなどに書き、読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、登場人物の言葉を考えようとしている。
10	4	ローマ字	△ローマ字に興味を持ち、ローマ字の書き方について理解し、ローマ字に親しみをもち、読めるようにする。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ	1～3 4	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. 日本語はローマ字でも表記できることを知り、母音と子音の意味を理解して、ローマ字で書かれた簡単な言葉を読む。 2. 「のばす音」「はねる音・つまる音」などの特殊な書き方について理解し、読めるようにする。 3. 大文字・小文字で書くときのきまりを理解する。 4. ローマ字の書き方の違うものがあることを知る。 5. 自分の身のまわりにあるローマ字に目を向け、ローマ字を集めるなどして、意識する。 ○学習を振り返る。	◎【知技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】進んで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもって、ローマ字に親しもうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10	1	ローマ字とコンピューター	△コンピューターにローマ字で入力をする際に大切なことを知り、コンピューターを活用する。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第３学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ	1	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. p.137を読み、コンピューターに入力する際にはローマ字で打ち込む必要があるが、文字変換の際の文字の選択・決定は人が決める必要があることを理解する。 2. 入力の際に気をつけなければならない字について理解し、正しく打ち込めるようにする。 3. 実際にいろいろな言葉を入力をして、ローマ字の綴り方の確認をする。 ○学習を振り返る。	◎【知技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもってコンピューターにローマ字で入力しようとしている。